

平成31年度 上田市立城下小学校 学校自己評価シート

○ 評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった (◎：1番多い評価 ○：2番目に多い評価)

学校教育目標	めざす子どもの姿 (中期的目標)
まなび きたえ ともにのびる子	<ul style="list-style-type: none"> ・友の話を聞き、自分の考えを伝え合い学びを深めようとする子 ・心と体の健康を考え、進んできたえようとする子 ・互いに支え合い、思いやりの心を育もうとする子
今年度の重点目標 「指導の基盤になる集団の育成」	
1	授業のユニバーサルデザイン化による誰もが安心して学べる環境づくり
2	お互いが認め合い高め合える、人間関係を大事にした集団づくり
3	ルールとマナーが定着した安心して自己表現できる集団づくり

総合評価				
<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業内容の焦点化を図ることで、追究が明確になり、自分の考えや、友の話を聞く場面も増え、深い学びにつながってきている。多くの授業公開の中で実践しようとしていくことができている。 ・元気に遊ぶ姿が多く見られる。全校体育やマラソンタイムなどで楽しみながら基礎体力の向上が図れている。 ・思いやりの心を育てることは難しいが、児童個々の良さを認めながら、学級づくりを進めている。 				
A	B	C	D	成果と課題 <☆:改善策>
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の焦点化の取り組みが進んだが、お互いの取組の手立て・成果や課題を職員で共有していくことが課題である。 ・個々の職員によって差はあるが、授業のユニバーサルデザイン化の取組は進んでいる。 ・わかりやすい板書やデジタル教科書の利用など提示の工夫ができた。 ☆今後、授業のユニバーサルデザイン化の取組を実践するとともに、個々の児童の理解を深めていくことによって「安心できる環境づくり」を進めていく。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの違いを認め合う集団作りを進めていくことが課題である。 ・学級により差はあるが、お互いの人間関係作りを大切にしている指導ができている。 ・道徳や生徒指導の場で、認め合える関係づくりをしてきた学級が多い。 ☆日々の指導を継続的に行い、集団の中での人間関係を深める機会を大切にしている。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・全校で、挨拶・無言清掃・廊下歩行を重点に定め、取り組んだ。児童個々の良さを認め、子どもたちの生活習慣を育む言葉がけを心がけた。学級・学年によって差はあるが、徐々に取組の成果が出始めている。 ・自分の考えや疑問をのびのびと表現できる集団と、なかなか表現できにくい集団があるのも事実である。今後、集団の状況に応じて「ルールが確立している集団」育成を目指していく。 ☆基本的な生活習慣や社会的なスキルを一つ一つポイントを絞りながら、全職員で指導していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	教育課程・学習指導	心の通じ合いを重視した指導の推進	協力して活動する場や互いの良さを認め合える場を設定しながら行事、学級経営、学習指導を進めることができたか。
		授業のユニバーサルデザイン化	どの子にもわかる・できる授業づくり、確かな学力が身につけていく授業づくりができたか。
		学び合いを大事にし、考えを交流する場の設定	国語の読解力、算数の思考力の向上を目指し追究の場でお互いの考えを伝え合い、話し合う学習活動を設定しているか。

A	B	C	D	成果と課題
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や音楽会など行事の中で協力することの大切さを実感する場面をもつことができた。 ・帰りの会で、友だちの良いところを伝え合う活動をしたことで、お互いの良さに気づけるようになってきている。 ☆今後も互いの良さを認め合う場面を意図的に設定していく。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン化のチェックシートやUDカードの活用により、職員個々や学校全体の授業作りの課題を明確にして取り組むことができた。 ・ユニバーサルデザイン化の理解が進み、様々な工夫を授業に取り入れた実践が進んでいるが、児童の実態にあった支援の度合いをどうするか課題である。 ☆多くの実践の中で明確になったことを、活用できる「指導の知恵」としてまとめ実践を進めていく。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習、ペア学習を意識的に取り入れることができた。 ・「追究対象」「追究方法」を絞り込み、「話し合いの方法」の指導をもっと丁寧に指導する必要を感じる。 ☆自分の意見を言いたくなる(やりたくなる)ような、学習課題の設定ができるように、

		家庭学習の充実	家庭学習の手引きを活用し、日頃の学習指導と連携させて家庭学習の習慣化がはかれたか。
生徒指導		明るい挨拶や返事の励行	進んで行う挨拶や気持ちよい返事を繰り返し指導し、教師が実践することで、子ども達に広がっていったか。
		生活規範意識の育成 (基本的な生活のルール の確立)	集団生活のきまりや約束に関する日常的な指導を進めたか。(遊びの約束事の徹底、安全な廊下歩行、授業を受けるルールの指導、無言清掃の取り組みに向けた指導等)規則正しい生活習慣が身につけてきたか。
		いじめ・不登校を未然に防ぐ取り組み (温かな人間関係)	自他の良さを認める場の設定や日常的な人権同和教育、自己有能感を高める教育活動を行うことができたか。 子ども達の様子に目を配り、友達関係や実態をつかみきめ細やかな保護者との連絡を心がけることができたか。
学校運営	地域との連携	学社融合 地域の方々との交流	地域で活躍している方々と連携して、地域のものや人と関わる活動や交流ができたか。
		保護者との連携	参観、行事、懇談、環境整備等、保護者の方々の理解や協力を得ながら教育活動を展開しているか。
		学校からの情報発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページを通して情報をタイムリーに発信できたか。
	研修	授業づくり研修	国語・算数・道徳・人権教育等の一人一公開授業を通して、自らの課題に向けて授業改善を進められたか。

				教材研究に力をいれていく。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・宿題のマルつけなど、努力を認めるコメントを書くことができたクラスが多かった。 ・家庭学習の習慣化については、課題が見られる。授業内容の応じた家庭学習のあり方など、家庭学習を定着させる工夫が必要である。 ☆「紡ぐ」を活用し、家庭での取り組みを保護者と共有しながら進めていく。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの良い挨拶のできる児童が多い。自分から進んで挨拶ができる児童がいるが、まだ、自分から挨拶できない児童もいる。挨拶の意味を繰り返し指導すると共に、挨拶が習慣化できるように、職員の後ろ姿で教えていく。 ☆粘り強い指導の継続と児童会活動としての取り組みに力を入れていく。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事だけでなく、ことあるごとに指導をしている。教師間での連絡も密にし、取り組むことができています。 ・無言清掃の取り組みには、学年・学級で差があるので、学年、クラス関係なく指導を入れていく ☆職員が、同一步調で指導することにより、職員全体で規範意識を育成していく。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・相談週間での一人一人との相談や日頃の学校生活の様子から子どもたちの実態を把握し、早め早めの対応を心がけている。教師間での情報のやり取りを密にして、小さな変化に気づけるようにしている。 ・児童の頑張りを見落とさないようにし、本人に良さを伝えることが続いている。 ☆その都度、小さな事でも情報を共有できるようにし、適切な対応ができるように複数の眼で見えていく。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・地域めぐり、米作り、社会見学等で多くの支援をいただいている。ボランティア活動でも多くの方に参加していただいている。 ・クラブ活動を通して、地域と交流することができた。 ☆城下CS学校支援ボランティアに登録いただいているリストを活用し、交流の機会を増やしていく。
	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行こう週間」や参観日だけでなく、連絡帳やお便り、電話等で理解を得られるように努力していく。 ☆PTA活動を通して多くの協力を得ている。保護者の意見や要望を聞きながら連携を深めていく。
		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信や学級通信、学校だよりを発行し、情報を発信している。ホームページでは学校の出来事を細かく紹介している。 ☆学校の様子の発信だけでなく、保護者が必要としている情報を手軽に得ることができるようにホームページなどの活用の工夫をしていく。
	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・多くの職員が授業を公開し、授業を見合う中で、学び合うことができ、自己の実践を見返すことができた。 ・毎週行われる「重点研究部会」の研修により、授業力を磨くことができた。 ☆各自課題を明確にし授業改善を進めるだけでなく、学んだことを共有する場をもつ。